



うしくでびっく!

おくのちくしゃきょう

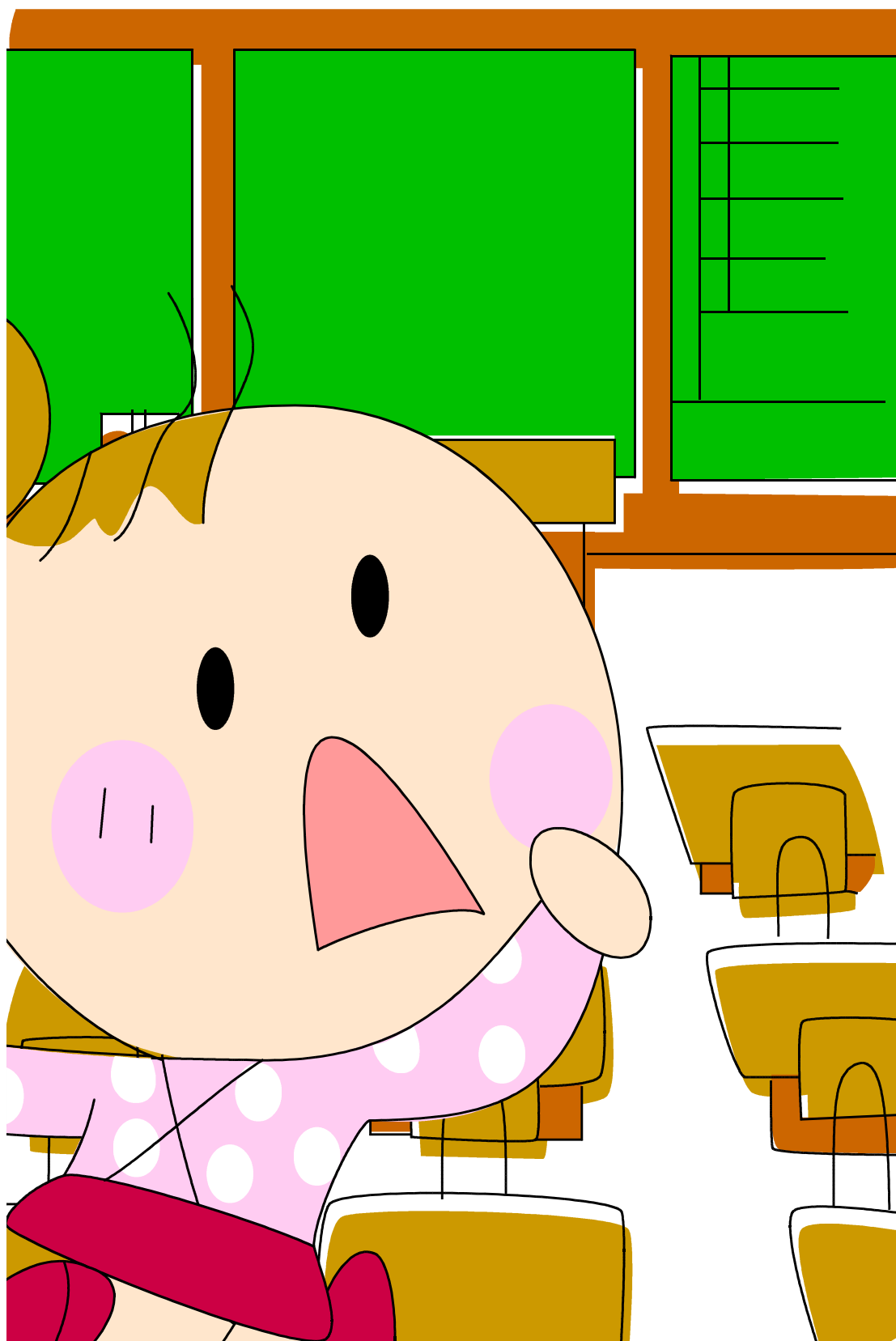
おくのちくしゃきょう
さく いいだあきお

「ねえねえ、おくのにさ
くらの それはそれは、
きれいなところが、ある
んだってよ」

と なっちゃん。

「どこどこ？ そんな
はなし きいたことない
よね？」

と りりちゃん。



「わたしも きいたこと
ないわ。でも、みてみた
いな」

と ららちゃん。



そこで、さんにんは、
「さくらのきれいな　と
ころを　しらべることに
した。

あれあれ、これはおもしろそうと、な
ぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。
どこかな？



わたしは、なぜなぜで一す。

でも、どうしらべたら
いいのか さっぱり わ
からない。

さんにんは、あたまを
くつつけて、かんがえた。



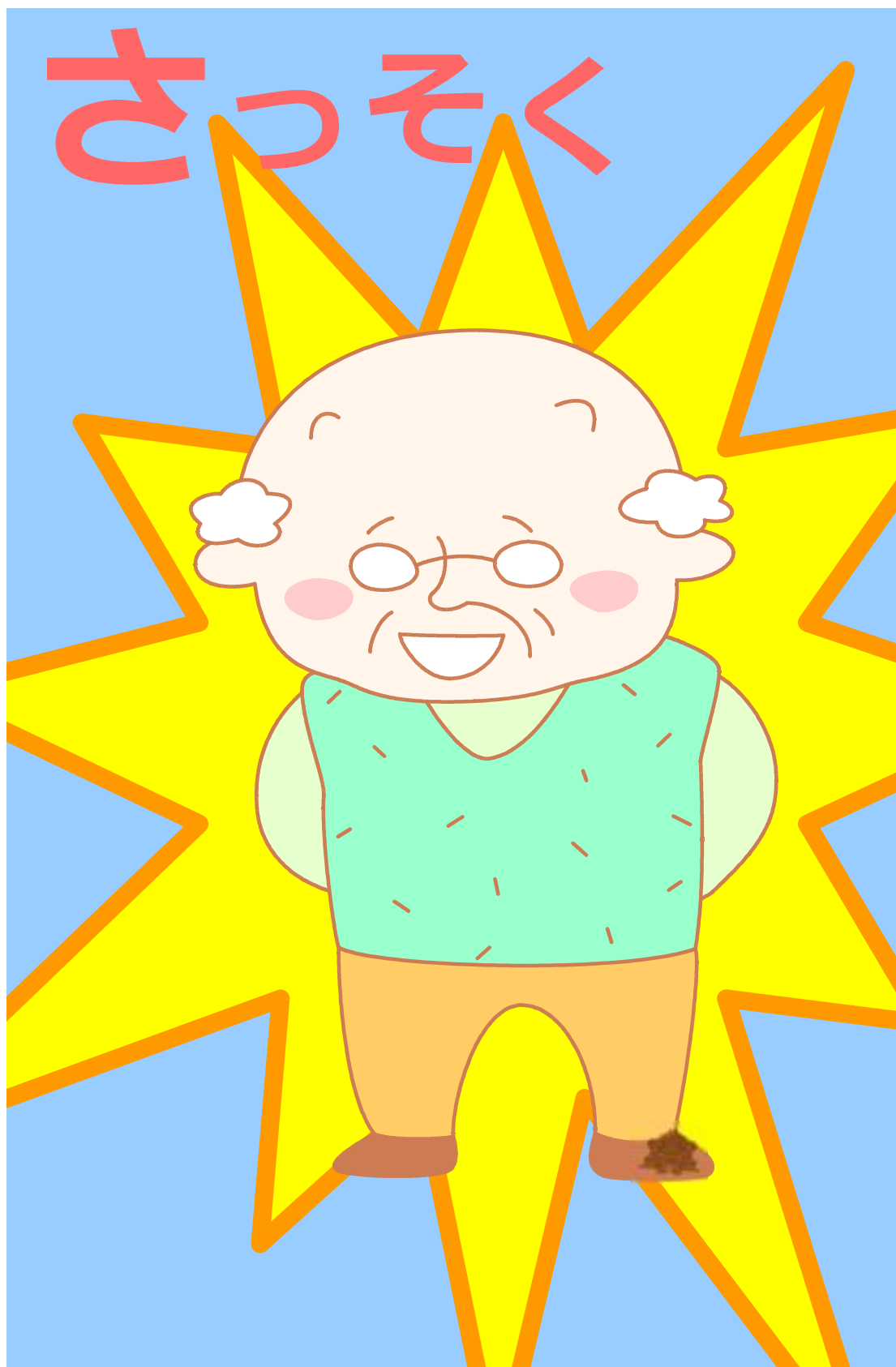
そのときだった。なっ
ちゃんが、

「あ！　　そうそう　おじ
いちゃんに　きいてみよ
う？」

と　いいだした。

なっちゃんは、ものを
よくしっている　おじ
いちゃんが、だーいすき。

さっそく

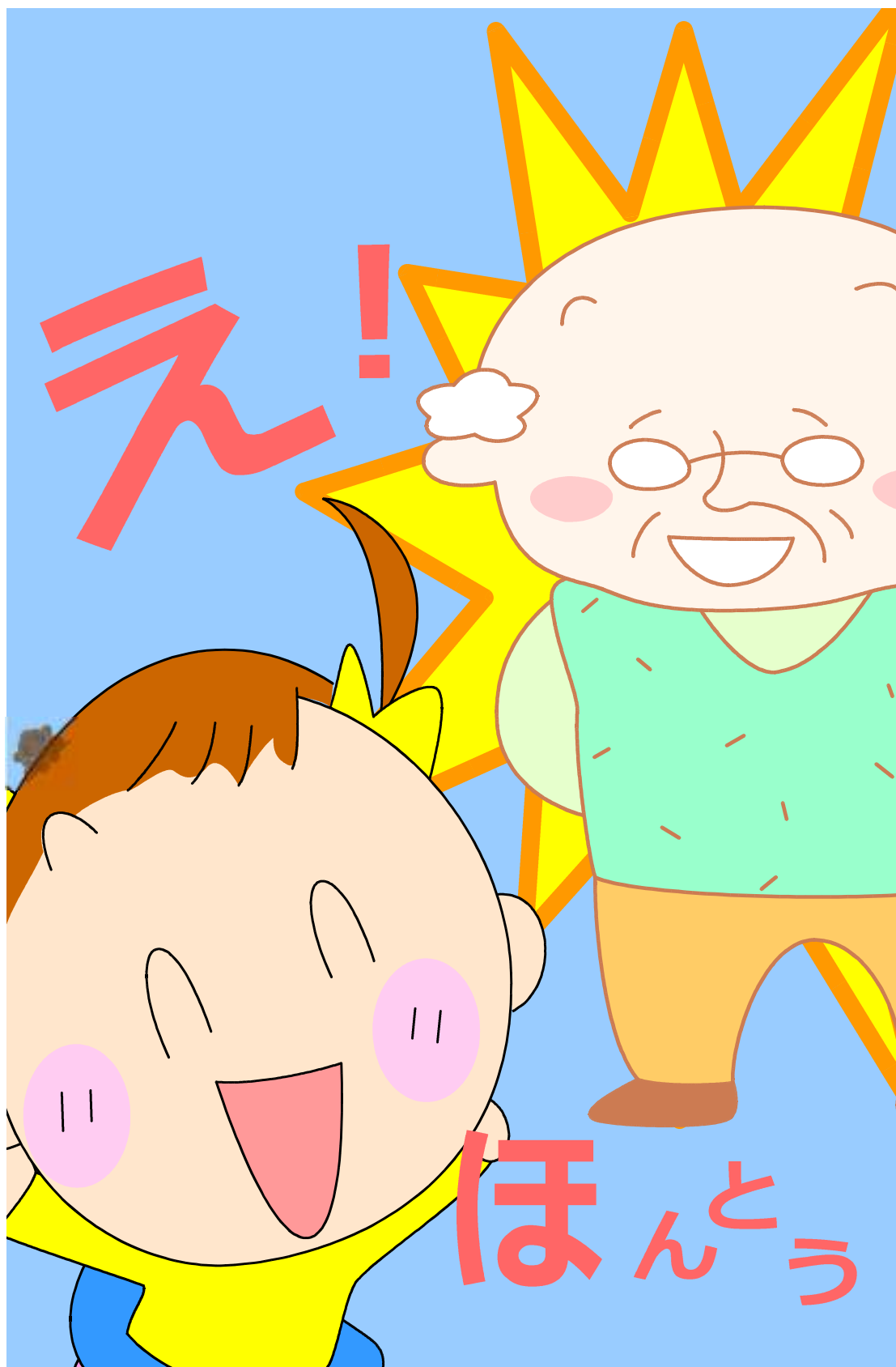


つぎのひ おしえても
らうことにした。

「おじいちゃん、おくの
で、さくらのきれいなと
ころは、どこ？」

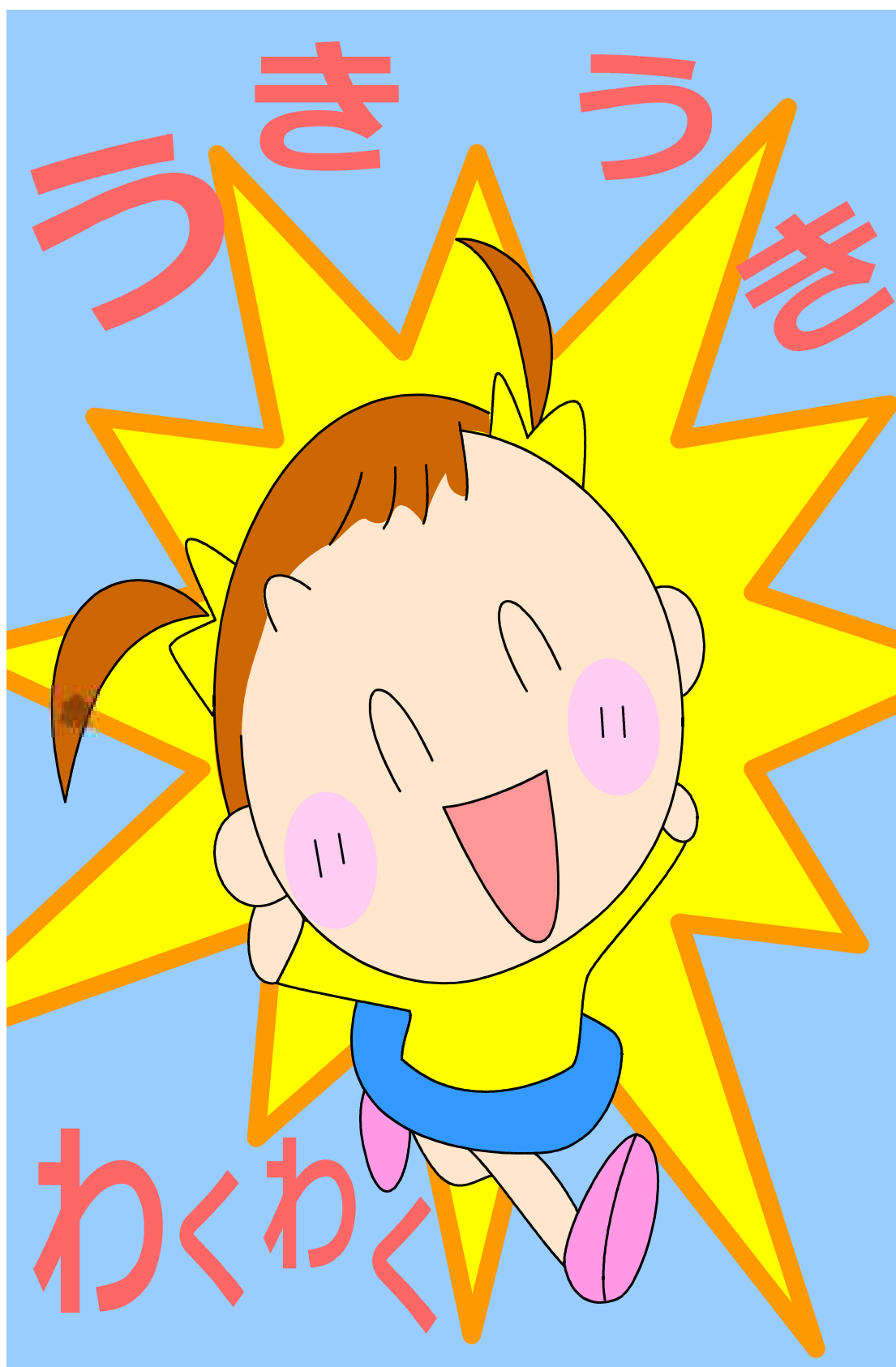
「んー・・・あ！ そう
そう、かんのんじの さ
くらが、ゆうめいだよ」

「いや　　まてまて。とも
だちに　　きいたんじやが
おくばらにも　　きれいな
ところが、できたらしい
んじや？　　わしも　　いっ
てみよう　　おもって
たところじや。いっしょ
にいくか？」



「よかった。きれいな
さくらが、みれるぞ！」

あるはるのひのこと
さんにんは、おじいちゃん
んと おくばらに いく
ことにした。





こくどう 408 ごうせ
んから おくばらのこう
ぎょうだんちに はいる
ていじろのさかを あが
っていくと・・・。





わーきれい!

ずーっと
ずーっと
つづいている

どこまで、つづいているのかな？





びっくり!



びっくり!

きれい

きこえた!

と　さんにん。めになみ
だを　うかべながら、お
およろこび。

こうして、さんになは、
また、ひとつ おくのの
たからものをみつけるこ
とができたのだった。

さて、こんどは、なに
をしらべようかな？

あれあれ？「すごーく、たのしかった」と なぜな
ぜくん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら
かえっていった。


またね